

創業

144年目

1874年、西松桂輔が土木建築請負の事業を起し、1914年、西松光治郎が西松工業所の名称で独立経営を開始。1948年に西松建設株式会社と改称しました。

受注高

3,601億円

連結ベースの受注高は前年度比18.2%増の3,601億円となりました。国内建設事業の受注が好調で、土木では道路トンネルや鉄道トンネル、建築では共同住宅や商業施設など大型工事を順調に受注することができました。

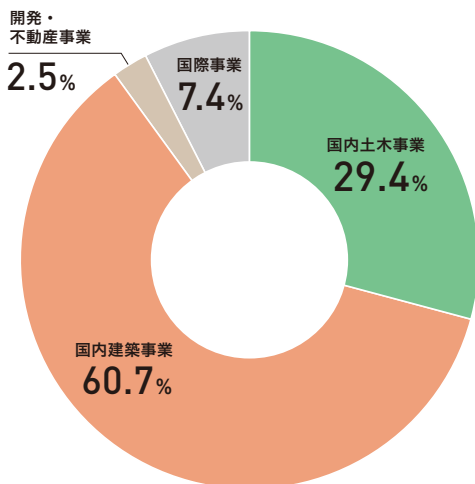
売上高

3,152億円

売上高は、前年度比2.1%増の3,152億円で、若干の増収になりました。経営資源を最大限に活かし、持続的成長を目指します。

事業ポートフォリオ (個別ベース)

売上構成比



事業紹介

事業	受注高 (個別ベース)
国内土木事業	1,244億円
国内建築事業	2,127億円
開発・不動産事業	—
国際事業	183億円

現場力強化に努めてきた私たちの歩み

1914年

初の単独請負  
運命の宮崎線第12工区新線工事



第一次世界大戦の影響で物価が高騰する中、資材の手配や資金繰りに窮するも予定どおり工期内に完成。工事を通して誠実さ、責任感の強さ、いかなる困難にも耐えるという西松イズムが生まれたきっかけとなりました。

1946年

日本初のロックフィルダム  
石淵ダム工事



第二次世界大戦終戦直後の混乱期中、岩手県胆沢川に多目的ダムとして建設。当時の日本には前例がないため、アメリカの文献を頼りに、創意工夫を凝らし施工にあたりました。

1973年

土砂との闘い20年  
鍋立山トンネル工事



掘っても掘っても押し出てくる膨張性地山に対して、あらゆる土木技術が投入された、土木建設史上に特記される工事です。

ROE

11.9%

親会社株主に帰属する当期純利益は192億円で、過去最高益を更新しました。これにともないROE（自己資本当期純利益率）も非常に高い水準となりました。

配当性向

30.2%

永続的な発展にむけた経営基盤の強化のため、内部留保の充実を図りつつ、経営環境や業績を総合的に勘案しながら、配当性向を連結当期純利益の30%以上とし、安定的かつ継続的に利益還元していくことを基本方針としています。

従業員数

2,740名

人財は当社にとっての最大の経営資源であり、持続的成長のためには安定的な人財の獲得が必要です。連結ベースの従業員数は前年度から36名増加しています。

※2017年3月31日現在

売上高（個別ベース）

事業内容

904億円

これまで培ってきた技術をもとに、自然との調和、災害に強い国土づくりを目指します。社会資本の整備、各企業の設備投資に貢献するとともに、お客様や協力会社、利用者様といったすべてのステークホルダーとWin-Winの関係を築いていきます。

1,863億円

ソフト・ハードの両面にわたる技術を絶えず追求するとともに、蓄積した技術を後世に確実につなぎ、安全・安心なまちづくりに貢献しています。

77億円

お客様や社会の多様なニーズに対して、建設技術や開発ノウハウを活用した付加価値の高いソリューションを提供します。

225億円

半世紀にわたる豊富な経験と実績を活かし、ローカル企業・ローカルスタッフの協力のもと、各国の交通・環境などのインフラ整備および日系企業の海外進出に貢献しています。

1988年

東洋一の超高層ビル（当時）  
UOBプラザ新築工事



シンガポールの中心地区に高さ280m、地上66階建ての超高層ビルを建設。最新のコンクリートポンプを導入しそれまで施工例のなかった高所圧送を実現しました。

2003年

神田神保町に新しい街  
神田神保町一丁目南部地区再開発事業



計画から15年以上かかった再開発事業。延床14万m<sup>2</sup>を超える複合型住宅商業施設の建設に延べ45万人が従事し、無事故無災害を達成しました。

2017年

「ひと」「まち」をつなぐ生活提案型  
ショッピングセンター『ハレノテラス』



さいたま市見沼区において、西松グループが事業の企画からテナントの誘致、運営管理までワンストップソリューションで行うパッケージ型事業です。